

やわらぐれ

(上映時間 約25分)

作・香城由里

登場人物

ゆうな(年少〜年中)

お母さん

みかせんせい(ゆうなの幼稚園の先生)

れいか(ゆうなの友達)

ニンジン

ピーマン

トマト

はちみつ

オリーブオイル

マヨネーズ

ゴミ箱

ナレーター

あらすじ

幼稚園に通うゆうなは野菜嫌い。お母さんはゆうなに少しでも野菜を食べてもらいたいとお弁当にサラダを入れますが、ゆうなはいつも手を付けずに残してきます。

ある日のお昼、ゆうなはみかせんせいから、「お弁当を全部食べるまで家に帰ってはいけない」と言われてしまいます。ゆうなはどうしても野菜サラダのニンジンとピーマンとトマトが食べられず、お弁当の前にして座ったまま、帰る時間になってしまいます。

次々と帰っていく園児たちを見て、ゆうなは「のまま帰れなかったらと焦り、こっそりティッシュにサラダの野菜を包んでゴミ箱に捨ててしまいます。全部食べたように見せかけて家に帰ったゆうなは、お母さんから野菜を食べたことを褒められて、後ろめたい気持ちになりました。

その日の夜、ゆうなは夢を見ました。ゴミ箱に捨てた、ニンジンとピーマンとトマトがよみがえり、「よくも僕たちを捨ててくれたな!」と言ってゆうなを襲ってきたのです。必死で逃げるゆうな。追っかけてくる野菜たち。ついに追いつめられて、もうダメだ...と思った瞬間、救いの手が。いつの間にか、ゆうなの手にはフォークとナイフが握られ、野菜たちと戦っていました。さらに、はちみつ、オリーブオイル、マヨネーズが現れ、野菜を料理して、ゆうなの前に出してくれます。その野菜メニューを食べたゆうなは美味しくビックリ。ゆうなは調味料のおかげで、野菜が食べられるようになったのです。

作者より

食べ物の好き嫌いは人それぞれです。私の場合もそうでした。肉嫌いだった私は、幼稚園に通っていた頃、お弁当に入っていた肉を全部食べるまで帰れないという、ゆうなと同じ経験をしました。先生はお母さんを含め、食べ物を作ってくれた全ての人に感謝して、残さず食べることを教えたかったのだと思いますが、味も食感も噛み応えも嫌いで、どうしても肉が食べられませんでした。結局、何時間もお弁当の肉とにらめっこをして、最後には半べそ状態で許してもらったように思います。

そんな苦い自身の経験から、嫌いな食べ物を克服するために何かきっかけになることはないかと考えたのがこの劇です。嫌いな食べ物が美味しい料理に変身して夢に現れ、バーチャルで苦手な食べ物が食べられるようになって、それが正夢になるというお話を思いつきました。

タイトルの「やさいくさ」とは野菜+戦(いくさ)の造語。嫌いな野菜と向き合う事はまさに戦いです。戦ったから「そハッ。ピーエント」を迎えるお話です。楽しく、愉快に演じていただければ幸いです。

○すずらん幼稚園さくら組の教室

ナレーター

ゆうなちゃんはずらん幼稚園に通っています。
野菜嫌いで、お母さんがお弁当に野菜を入れても
いつも、残してきます。

みかせんせい

さあ、お昼の時間ですよ。
今日もお弁当を美味しくいただきますよ。

ナレーター

ゆうなちゃんのいるさくら組の園児たちは、机の上に
お弁当を広げて食べています。
ゆうなちゃんは野菜サラダを残して
お弁当のフタを閉めようとしています。

みかせんせい

あら、ゆうなちゃん。もう食べ終わったの？

ゆうな

うん。もう、おしまい。

みかせんせい

野菜サラダがまだ残ってるじゃない？

ゆうな

いいの。食べない。

みかせんせい

どうして食べないの？

ゆうな

だって、嫌いなんだもん。

みかせんせい

お母さんがゆうなちゃんのために作ってくれたのよ。

ゆうな

だって、野菜まずいもん。

みかせんせい

まずい？せんせいはそう思わないけどね。

ゆうな

まずいものはまずいもん。

ナレーター

みかせんせいはゆうなちゃんに顔を近づけて、首を横に
ふりました。

みかせんせい

ゆうなちゃん、何でも食べられるようにならないと
大きくなれないんだよ。

ゆうな

いいもん。大きくなれなくても。

みかせんせい

そうなんだ……。どうしても食べないんだね。

ゆうな

うん。食べたくない。

みかせんせい

食べないと、お母さんも野菜たちも悲しむよ。

ゆうな

そんなことないもん。

鐘の音(効果音)

みかせんせいIN

ゆうな、園児IN

園児の騒ぐ声(効果音)

ゆうな、お弁当箱を持つ

ニンジン、ピーマン、トマトIN

床に座って様子を窺う

ゆうなの方を見て

素つ気なく

1

ふてくされたように

投げやりな感じで

泣くようなしぐさをする